

東曜婦德辨

全

特別  
イ4  
696  
54



696  
54

中六 陳耀婦德辨  
玉口文序

九例

豊臣秀吉の四男後徳とて天下を掌握する人  
と雖

東照宮の神主利世安氏の徳とて天下を治むる人  
也

吉宗の命とて婦女傳を令撰する人  
也  
心魂の徳とて威儀を好む人  
也  
子孫の徳とて常もわらわぬ人  
也  
人との徳とて人との徳を好む人  
也



投見之不可許

東曜婦德辨卷之上

目錄

- 一 世良回之節之清原右大臣室
- 一 東照宮御母業傳至院年美神皇山元年
- 一 御母國信年信原右大臣室從山元始終
- 一 載亦中御之秀原卿御母業
- 一 秀原卿信原御相續
- 一 信原院御秀原御母業
- 一 御後少將上院女忠輝御母

是月御撰 卷之上







































と請ふに於て代言長成名と成るに於て其の年世長成之所  
成表長成忠孝名を言ふに人宜相強かりし時村百人其れ  
西の役三解を承徳神と云河内洲池と云此地也其  
自中と云今其物に於て水産又と云此物も出する山空  
入る宗見魁敏所純倫誠化理の人と云天平四年渡船し  
即由生始在皇朝將使臣位下在し後教流傳上録ありし  
教後列賢信川中場村合七拾五名を領し教後高田君城  
或時忠孝之教後と云母利多の教後并於其所及金谷  
りし其の教後八人外家族男女海多と云大綱と云其  
於此の年と云物多の事記を實上と云其しと云其  
流傳と云り海と云り四年に於て其の教後一人其

此の神の教後下と云り其の教後と云其の  
其の教後と云り其の教後と云り其の教後と云り其の  
何れに神の教後と云り其の教後と云り其の教後と云り其の  
未詳と云り其の教後と云り其の教後と云り其の教後と云り其の  
此の教後と云り其の教後と云り其の教後と云り其の教後と云り其の  
中と云り其の教後と云り其の教後と云り其の教後と云り其の教後と云り其の  
此の教後と云り其の教後と云り其の教後と云り其の教後と云り其の教後と云り其の  
吾と云り其の教後と云り其の教後と云り其の教後と云り其の教後と云り其の  
其の教後と云り其の教後と云り其の教後と云り其の教後と云り其の教後と云り其の





















漸一万石より少くはす、後入武名、後代、為り、本年、惜く  
存り、中、し、し、か、神、若、名、と、思、名、剛、將、ふ、東、八、万、石、即  
加、恩、を、中、し、し、か、實、に、偏、割、人、と、發、直、言、人、と、被、く、り、  
幕、政、の、言、無、例、し、し、つ、ま、り、し、

氷井、弟、姫、比、登、有、家、也、小、代、有、信、儀、と、為、長、増、了、年、  
即、信、更、有、奉、行、を、主、と、相、儀、何、故、相、承、と、と、被、給、し、し、相、承、友、  
又、傷、信、儀、存、と、討、此、將、と、知、行、と、言、及、今、八、万、石、  
相、別、新、氏、し、由、性、の、長、田、

去、神、主、考、を、賜、入、討、を、奉、儀、と、大、悔、り、と、去、主、家、承、六、  
由、り、あ、り、と、被、り、又、依、原、を、奉、り、の、執、り、と、被、り、壁、我、り、知、り、し、も、  
家、承、者、也、と、被、り、及、つ、り、細、り、有、り、ん、と、附、着、り、お、述、形、と、

小

出、し、し、の、何、事、を、考、ま、り、お、環、り、其、事、を、及、り、と、大、怒、り、と、  
其、後、九、万、石、と、被、嚴、病、也、と、被、り、信、也、と、被、り、許、並、り、と、  
也、と、あ、り、と、九、万、石、を、怒、り、悔、り、と、い、ふ、可、以、被、り、世、に、西、月、か、  
思、ひ、と、被、り、信、儀、入、道、と、被、り、其、後、秀、吉、に、被、り、  
性、と、被、り、由、將、信、儀、信長、の、弟、と、被、り、信、勝、の、文、祿、元、年、  
別、稱、と、討、た、り、と、考、ま、り、其、後、九、條、九、万、石、と、被、り、流、  
九、條、政、府、と、し、り、と、後、四、万、石、と、被、り、道、房、と、被、り、  
後、又、文、祿、四、年、秀、吉、と、の、約、令、大、將、軍、秀、忠、と、被、り、嫁、り、と、  
即、ち、七、人、社、と、豊、臣、秀、頼、と、の、屋、中、嫁、り、と、武、徳、長、君、の、  
早、世、と、慶、長、九、年、甲、辰、七、月、廿、七、日、大、將、軍、家、光、と、の、御、誕、生、被、り、  
忠、長、と、の、屋、中、東、高、河、原、に、被、り、腹、に、世、大、御、老、と、中、此、御、























武鑑日本書二條名自老平の家臣北小路加茂の神藏より出り  
北小路宮内少輔宗利始り本居改印云々

大藏院殿の所屬中宮東山入喜の時上宮の印は云々  
宰相有純那の息女梅姫一と有痴人之其側置の女玉と  
之有或時將軍家老一と有痴人有時凡と印月歩  
所前守如云々形者若く有勅本坊南と所前出云  
飛也と名を改らる京西降地川敷所より云々此所小  
八百九行り一書り云々云々仁行の病云々妻媧とありて  
後世云々又二條殿基所跡後と有使と云々云々云々の  
此所を本家此と書病云々云々女玉痴人只云々人  
本家本家仁行の痴人云々の彼媧と云々の後云々

妻云々人々人の後好ハ一書云々座上人太宮大藏院師云々  
後書云々妹ハ終云々云々知の時人云々云々云々の此云々  
其書相云々留云々云々火云々云々云々云々云々の後云々  
云々の大云々云々云々の云々云々云々の折云々  
其云々云々云々人云々の後云々云々云々の折云々  
生云々云々云々の人云々の印云々云々云々の懐妊の云々  
折腰胎の神云々云々云々懐朝云々云々云々の夜ハ  
佛云々云々云々月云々云々云々云々の印云々云々  
云々の若希の云々定云々云々の印云々の云々云々の  
の若希の云々の若希の云々の我妊身の神と恭齋云々  
寝合と云々の若希の云々の云々云々の時云々の情云々何云々

















三の部が... 林昌軒... 養子... 可成... 神田の鍛冶... 妙跡... 御長... 月光院殿

文照公御寵愛於瀧免之方

於瀧免之方... 大正前若虎吉君... 中御院慶仁帝... 同家子八若

同家子八若

右近の方... 太田宗菴... 子太田内記

有徳院教言宗御母海圓院殿系

婦女傳... 東照宮大坂陣... 構の御普請

京都侍り何々也 禁裏御造官の將八宮西大上以廻文  
召集支那と為將中井至水也 海圓院殿中井大和從方と  
中紀別光貞心は 吉宗と産まむ海圓院殿實父の吉西陣  
相本所之新の房も娘と被入紀別巨勢村の百姓の力量人と致  
一貫目と致と致と一貫七文の田を耕と致と 我も 吉宗と始む  
之程も即二方も有りしが紀別御中家御お終ありと  
從之位中御も成りし後 將軍家繼之業を承りし  
吉宗御中終り 海圓院殿吉宗傳三年吉宗御紀別  
御中二の兄御入 海圓院殿御中御中京之湯屋有る紀別  
吉宗 巨勢村の 吉宗海圓院殿 從方巨勢丹守  
吉宗殿數班象御川の 前子大和守相續し御例元十五

才六段の伊子子御例也 海圓院殿の御甥二人吉宗を元  
西陣の身終り 海圓院殿御中御中後為御中志有る  
弟部御中終り 吉宗殿東御相續し後吉宗殿吉宗  
そんり 兄吉宗御中其六言才八三列相續御中志有る  
と成り御例也 海圓院殿御中御中長傳也  
征夷大將軍家重御中御中深徳院殿  
紀別累代の家臣大久保八郎重也 吉宗と八位一家重  
長福君と産まむ 不幸あり正徳三年死す八郎重の八郎重  
家重とは八百名其後大詰言 宣下の將八郎重從方伊勢と  
成り三の石為將御例也 御中御中三の石  
家重御中御中比の宮御中

鳥羽院より皇子の後胤伏見御所又仁親王の姫宮比子宣保十六年  
青七日軍東御入奥同十八年十月二日薨去 證明院殿東殿山

大納言家治の御母を於幸の方

梅淡中納言通祿卿の眞女於幸殿 比宮宮東御入奥時  
上前の御方より御供たりし祿か御簾中薨去す皇孫  
從侍の男女御暇より上京せしを折所於幸の方病氣を  
御成り二月五日一人本以暇を 御目見有る 家重の  
のへ上京延川より 妻方寝席は倍ゆ 竹代君と  
誕生より一の前部を祐と正直賢知の女性也

こく丸

